

第11巻 第1号 (通巻第19号) 2022年7月発行

ISSN 2187-0292

埼玉透析医学会 会誌

Journal of the Saitama Society for Dialysis Therapy

Volume 11, Number 1

2022

特集

第13回 埼玉アクセス研究会 学術集会
プログラム・抄録集

第49回 埼玉透析医学会 PROCEEDINGS-2021



埼玉透析医学会

<http://www.ssdt.jp/>

埼玉透析医学会 会誌

Journal of the Saitama Society for Dialysis Therapy

Volume 11, Number 1

2022

特集

第13回 埼玉アクセス研究会 学術集会
プログラム・抄録集

第49回 埼玉透析医学会 PROCEEDINGS-2021

埼玉透析医学会

<http://www.ssdt.jp/>

INDEX

巻 頭 言	1
-------------	---

第13回埼玉アクセス研究会 学術集会 プログラム・抄録集

会場案内図・会場見取図	5
参加者へのご案内とお願い	6
発表論文原稿執筆要項について	9
プログラム	11
抄 録	
特別講演	15
シンポジウム 1	17
シンポジウム 2	25
一般演題	31
世話人会一覧	36
協賛企業一覧	37

第49回埼玉透析医学会学術集会 PROCEEDINGS-2021

proceedings 目次	41
特別講演	43
指定講演	46
教育講演	67
一般演題	77

学術集会開催記録	93
2022年施設名簿	94
埼玉透析医学会会則	96
埼玉透析医学会 役員	98

次回開催のご案内

第50回 埼玉透析医学会学術集会・総会

会 期：2022年11月6日（日）

会 場：ウェスタ川越 多目的ホール

〒330-0854 埼玉県川越市新宿町1-17-17
TEL：049-249-3777

大 会 長：竹田 徹朗（独協医科大学埼玉医療センター 腎臓内科教授）

会 長：岡田 浩一（埼玉医科大学病院 腎臓内科教授）

演題申し込み方法：オンラインによる演題受付とします。

詳細は後日アップされる埼玉透析医学会
HPをご覧ください。

募集期間：2022年8月1日～9月30日

事 務 局：埼玉医科大学病院 腎臓内科 友利 浩司

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38
TEL：049-276-1611
FAX：049-295-7338
E-mail：jinnai@saitama-med.ac.jp

巻 頭 言

ハイブリッド形式から現地集合開催へ



埼玉透析医学会 会長

岡田 浩一

コロナ禍の第6波も終息を迎えつつあり、ようやく以前の日常が戻りつつあります。この3年間、当初は多くの学術集会が延期されましたが、徐々に完全オンライン形式か、もしくはハイブリッド形式で再開されるようになり、ここ最近では皆さんもWEB上での発表や視聴に違和感を感じなくなってきたのではないのでしょうか？主催者側の事務局からはオンライン配信の手配やコストも大分お手頃になり、また現役世代の参加数も増えるので、ハイブリッド形式の開催も捨てたものではない、という声も聞かれます。ただ、やはり現地参加でのみ味わうことのできるライブ感、座長と演者とフロアの波長が上手く噛み合った際に生じる質疑応答の盛り上がりには、その場にいる誰もがしっかりとした手応えを肌で感じ、「参加してよかった」と思うのではないのでしょうか？主催者は、参加して下さる皆さんにぜひこのような経験をしていただきたいと願っているはずです。

来る2022年7月31日に開催される埼玉アクセス研究会の第13回学術集会も大宮ソニック市民ホールで、現地集合開催で予定されております。そして11月6日に竹田徹朗大会長のもと開催される第50回埼玉透析医学会学術大会も現地集合を予定しております。参加して下さる皆さんにとって、安全でかつ手応えのある学術集会とすべく、準備を進めております。ぜひ現地にご参集ください。

2022年6月吉日

13th Saitama Society For
Dialysis Access

Abstract 2022

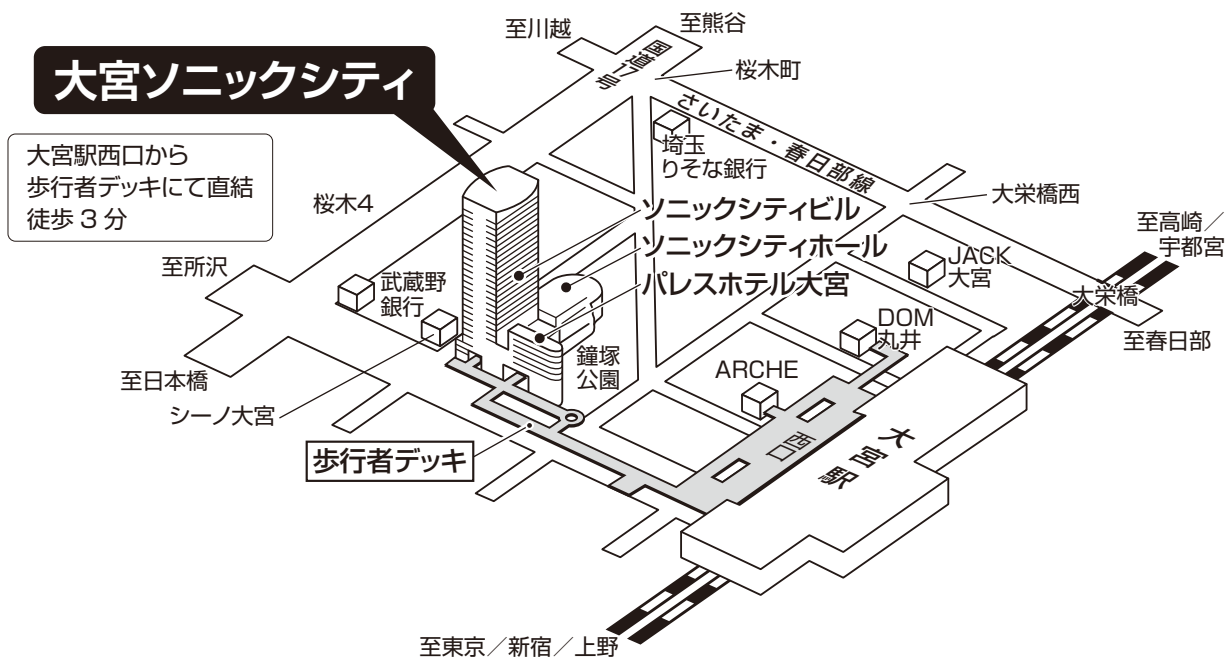
第13回埼玉アクセス研究会学術集会

- ・会 長：中川 芳彦（関越病院）
- ・副会長：四宮 敏彦（大宮中央総合病院）
- ・日 時：2022年7月31日（日）
- ・会 場：大宮ソニックシティ市民ホール
- ・開催形式：オンライン hybrid 形式

共催：埼玉透析医学会

事務局：〒350-8550 埼玉県川越市鴨田1981
埼玉医科大学総合医療センター 血液浄化センター
TEL：049-228-3523 / FAX：049-226-6822
E-mail：jinkojin@saitama-med.ac.jp

会場案内図



お問い合わせ

財団法人埼玉県産業文化センター（大宮ソニックシティ）

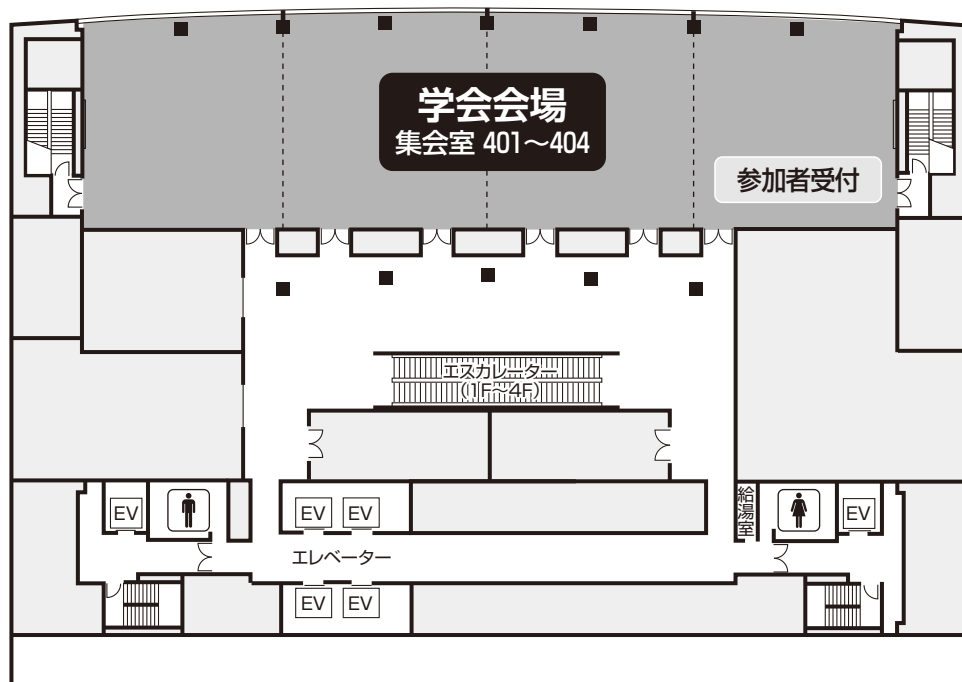
〒330-8669 さいたま市大宮区桜木町1丁目7番地5

ソニックシティビル5階 埼玉県産業文化センター

TEL：048-647-4111 TEL：048-647-4159

会場見取図

（大宮ソニックシティ 4F 市民ホール）



参加者へのご案内とお願い

■参加者の皆様へ

1. 会 期 2022年7月31日(日)
2. 会 場 大宮ソニック市民ホール(ソニックシティービル4F)
(さいたま市大宮区桜木町1-7-5)
3. 開場・受付開始時間 9:00～
4. 開演時間 9:20～16:45
5. 参加費 1,000円
6. 参加登録
本会への参加は本会ウェブサイトからのオンライン参加登録のみとなります。
「Web参加」もしくは「現地参加」のどちらかをお選びください。
当日、会場での参加登録も可能ですが、お手持ちのPC、スマートフォン等より、オンライン登録いただく必要があり、お時間を要しますのでできる限り会期前にご登録ください。
7. 取得単位
5学会合同認定“透析療法指導看護師”の受験資格ポイント取得対象会として認定されています。
8. 表 彰
一般演題の中から厳正な審査を行い、Best Presentation に対して表彰を行います。

【現地参加の方へ】

1. ネームカード・参加証・領収証の発行
Web開催配信画面より、ネームカード、参加証、領収証を発行いただけます。
現地会場にてご参加の方は、事前にご自身で出力いただいて、会場へご持参ください。
感染対策のため、会場での発券は行っておりません。ネームホルダーは会場にてご準備しております。参加証提示の無い方はご退室していただきます。
2. 発言される際はマイクを使用し、最初に所属と氏名を明らかにしてください。限られた時間内に討論ができるように、予めマイクの前にお並びください。
3. 携帯電話のご使用はロビーとし、会場内ではマナーモードの設定をお願いします。
4. クローク、貴重品のお預かりはできませんのでご了承ください。
5. 会場内の喫煙は禁止されておりますのでご了承ください。

【Web 参加の方へ】

1. ライブ配信の視聴方法

視聴には Web 会議システム Zoom ウェビナーを利用します。初めて Zoom を使う方は事前に Zoom アプリのダウンロードをお願いします。

下記の Zoom 公式サイト URL にアクセスし、「ミーティング用 Zoom クライアント」からアプリをダウンロードしてください。

<https://zoom.us/download>

ライブ配信当日は、参加費支払い完了時に送付されるメール「件名：【重要：要保存】第13回埼玉アクセス研究会学術集会《オンラインクレジット決済完了とログイン ID とパスワード》」に記載のログイン ID/ パスワードを利用し、本会ウェブサイトにある「Web 会場(専用ページ)」より、講演会場にご入室ください。

2. 接続環境の準備

- ・インターネット接続が可能な端末 PC、スマートフォン、タブレット
- ・ネットワークの安定した WiFi 回線もしくは有線による接続が望ましいです。
それほど高速でなくても大丈夫ですが、途中で切れない回線が望ましいです。スマートフォンのテザリングでも十分対応可能です。

3. Zoom ミーティングルームに入りましたら「スピーカの音声をテストする」をクリックして、音声が聞こえるか、自分の声が聞こえているか、接続状態を確認してください。
4. ご質問等がある場合は、チャットにてお願いいたします。座長より指名があった場合は、所属と氏名を明らかにし、ビデオ(カメラ)及びマイクを ON にして、お話しください。
5. 講演中は音声が入らないよう、マイクは必ずミュートに設定してください。

■埼玉アクセス研究会世話人、司会、座長の方へ

演題の審査表を受付にてお受け取りください。審査後は受付へのご提出をお願いします。
(Web 参加の場合はメールにてお送りいただきます)

■司会・座長・コメンテーターの方へ

1. ご担当セッションの開始予定時間 20 分前までには総合案内にて参加受付をお済ませください。
2. セッション開始 15 分前には、会場担当者へ到着のご連絡を頂き次司会・次座長席へご着席ください。
3. 限られた時間内で発表が円滑に進むよう、質問・討論を希望される参加者がいる場合は、司会者が指名し質問・討論が速やかに行われるようご指示ください。

■演者の方へ

CIVID-19の感染対策として人と接触を極力回避するために、事前に発表データをお送りいただきます。

提出期日は7月26日(火)AM までにお願いします。

メール送付先：埼玉アクセス研究会学術集会事務局 jinkojin@saitama-med.ac.jp

※提出後やむを得ず修正する場合もメールにて送付ください。

1. 一般演題は発表7分、討論3分とさせていただきます。
2. セッション開始15分前までに次演者席にお着きください。
3. 発表方法はデジタルプレゼンテーション(パソコン発表)のみとします。
4. プレゼンテーションは windows PowerPoint(データ作成のアプリケーションソフトは Windows PowerPoint2010/2013/2016のバージョンが使用できます)での作成に限らせていただきます(Mac の Keynote でスライドを作成した場合は、スライドが正しく表示されない可能性があります)。
5. Windows PowerPoint にて作成したスライドは、スライドのサイズ設定を(4:3)に設定してください。
6. 動画は利用できますが、音声出力は対応しておりません。
7. スライドの枚数制限はありませんが、発表時間を厳守してください。
8. 当日の発表時に利益相反についての情報開示をお願いいたします。
発表の最初か最後に利益相反自己申告に関するスライドを加えてください。
後述する「利益相反自己申告に関するスライド例」を参考にしてください。
9. 閉会挨拶時に BestPresentation の表彰を行いますので、ご参加をお願いいたします。
10. スライドを確認されたい場合は、発表30分前までに本部の PC 確認ブースにてスライド確認を終えてください。

■発表について

演台にセットされているキーボード、マウスをご使用ください。会場では、演者ご自身で演台上の機材を操作していただきます。お預かりしたデータの1枚目のページをオペレーターが出しますので2枚目からはご自身で送り・戻しの操作をお願いいたします(発表者ツールのご使用はできません)。

「利益相反自己申告に関するスライド例」

【スライド例】
発表時、申告すべきCOI状態がない場合

**第13回 埼玉アクセス研究会
COI開示**

筆頭発表者名 : ○○ ○○

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

【スライド例】
発表時、申告すべきCOI状態がある場合

**第13回 埼玉アクセス研究会
COI開示**

筆頭発表者名 : ○○ ○○

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などとして、

①顧問:	なし
②株保有・利益:	なし
③特許使用料:	なし
④講演料:	なし
⑤原稿料:	なし
⑥受託研究・共同研究費:	○○製薬
⑦薬学寄附金:	○○製薬
⑧寄附講座所属:	あり(○○製薬)
⑨贈答品などの報酬:	なし

発表論文原稿執筆要項について

本学術大会でご発表された内容は、埼玉透析医学会会誌（第11巻2号）掲載用の論文として収載して頂くをお願いしております。下記の会誌投稿に関する内規に承諾していただき、発表スライドの当日受付で提出、もしくは令和4年9月17日（土）までに下記送付先まで E-mail または CD で提出をお願いいたします。

特別講演

ご担当頂いた講演について総説としてご執筆賜りたくお願い致します。

ランチョンセミナー・企業セミナー

ご発表頂いた講演について総説としてご執筆賜りたくお願い致します。

シンポジウム・一般演題

ご発表頂いた演題について発表論文としてご投稿下さいますようお願い致します。

会誌投稿に関する内規

埼玉透析医学会（以下「当会」という）は、「当会」が発刊する「会誌」への投稿に関し、以下のとおり定める。

1. 投稿の種類

「当会」が発刊する「会誌」への投稿は、①埼玉透析医学会および埼玉アクセス研究会の学術集会で発表されたものから、発表論文として論文集に掲載するために投稿するものと、②会誌編集委員会の企画により、投稿を依頼されたものとする。なお、論文は透析医療に関するもの、会員に対し有益な内容で、他誌に発表されていないもの（抄録を除く）あるいは投稿中でないものに限るものとする。また、個人情報保護の観点から容易に個人が特定されないように十分に配慮しなければならない。利益相反がある場合は記載すること。

2. 投稿資格

論文の筆頭著者は原則として「埼玉透析医学会の施設会員」とする。

3. 原稿の作成

- 1) 原則としてパーソナルコンピュータを使用し、文字のみの本文を Word または Text のファイル形式で作成する。
 - 2) 文字数は図表を含めず総説は8,000程度、発表論文は4,000程度を目安に作成し、本文には頁をつける。
 - 3) ①図表は Word、Excel、Power Point、JPEG、GIF で作成する（写真などは鮮明なものを使用する）。
 - ②掲載は原則的に白黒印刷であるため、カラーで提出される場合は印刷時のコントラストに配慮する。
 - ③図表は本文とは別のファイルを用意し、図表の下に番号を記し、本文中に挿入位置を明示する。
- ※他誌書から図表を転載利用する場合（自筆も同様）は、著作者ならびに出版元の許諾が必要となる。

- 4) 文献は主要なもののみ10点以内とし、文中の引用箇所は、半角上付で引用順に1), 2) 3~5) のように記載し、著者4名以上の場合は“…, 他 ”“…, et al” とする。

①雑誌の場合 著者名：論文名. 雑誌名 巻：頁(初め-終わり), 西暦年

②書籍の場合 著者名：論文名. 書籍名(編者名), 頁(初め-終わり), 出版社名, 所在地, 西暦年

③誌名を略記する場合 出版雑誌の定める略名を使用し、また外国のものは Index Medicus の略称に準じる。

④「孫引き」を避け、必ず原典にさかのぼって出処を明示する。

4. 論文の体裁

表題頁、本文、文献、図表の順にまとめる。

1) 表題頁には①題名、②著者および共同著者(全員フリガナを明記)、③所属施設名、④連絡先(筆頭者の所属郵便番号、住所、電話番号、FAX 番号、電子メールアドレス)を記載する。

2) 本文はⅠ. 緒言(はじめに、まえがき)、Ⅱ. 研究方法(対象、症例、方法)、Ⅲ. 研究結果(結果)、Ⅳ. 考察、Ⅴ. 結論(結語、まとめ、おわりに)の順序で記述する。

5. 著作権

学会誌の掲載内容(インターネット上で公開する電子媒体を含む)の著作権は、「当会」が保有するものとする。また投稿者は、投稿内容が受理され学会誌に掲載された場合、学会誌掲載内容がインターネット上で公開されることについて了解しているものとし、これによる使用料は「当会」に帰属するものとする。

6. 校 正

会誌出版社の編集後、著者校正を依頼する。

7. 原稿締切

令和4年9月17日(土)必着とする。

8. 原稿の送付先

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

埼玉医科大学病院 腎臓内科

埼玉透析医学会事務局 宛

TEL : 049-276-1611 FAX : 049-295-7338

URL : <http://www.ssdt.jp> E-mail : jinnai@saitama-med.ac.jp

※原則として送付いただいたメディアは返却いたしませんのでご了承ください。

第13回埼玉アクセス研究会学術集会（共催：埼玉透析医学会） プログラム

2022年7月31日（日）

9時20分 開会

開会挨拶 9:20～9:30

埼玉透析医学会 会長 岡田 浩一（埼玉医科大学病院）
埼玉アクセス研究会 会長 中川 芳彦（関越病院）

一般演題1 9:30～10:10

座長：黒澤 明（さくら記念病院）
近藤 立雄（埼玉医科大学病院）

○1-1 左前胸部 AVG（左鎖骨下動静脈吻合）の静脈側吻合部狭窄を起因とした
頻回閉塞に対して VIABAHN 留置が有効であった1例

埼玉医科大学総合医療センター 金子 修 他

○1-2 前腕での動脈・静脈・動静脈転位を伴う内シャント再建術の経験

関越病院 中川 芳彦 他

○1-3 遊離自家静脈を用いてシャント導出静脈の修復を行った2症例の経験

関越病院 松田 香 他

○1-4 VAIVT にてステントグラフト（VIABAHN®）を使用した1例

済生会加須病院 今泉 理枝 他

特別講演 10:20～11:10

（共催：協和キリン株式会社）

座長：岡田 浩一（埼玉医科大学病院）

『最近経験したVAトラブルへの私なりの対応』

講師：中川 芳彦（関越病院）

一般演題2 11:20～12:00

座長：山下 文子（若葉内科クリニック）
檜岡 擁実（須田医院）

O2-1 看護師のエコーガイド下穿刺の評価

関越病院 関上 美穂子 他

O2-2 当院のシャントエコー検査の活用

関越病院 山下 勇貴 他

O2-3 当院のバスキュラーアクセス管理

友愛日進クリニック 保土田 拓也 他

O2-4 当院のバスキュラーアクセス管理の現状

若葉内科クリニック 藤川 飛鳥 他

シンポジウム1 12:20～13:50

（共催：株式会社カネカメディックス、ボストンサイエンティフィックジャパン株式会社）

『SIX SENSE of VA 戦士の流儀』

座長：中川 芳彦（関越病院）
四宮 敏彦（大宮中央総合病院）

SP1-1 私とアクセスとの繋がりを振り返る

イムス富士見総合病院 東原 宣之 他

SP1-2 当院での DCB 使用経験

秀和総合病院 志熊 聡美 他

SP1-3 難治経過の橈側皮静脈弓部狭窄に対する Drug-coated Balloon の使用経験

埼玉医科大学総合医療センター 清水 泰輔

SP1-4 内科医の失敗しないシャント作製術

防衛医科大学校病院 水口 斉

SP1-5 意外なバスキュラーアクセストラブル 3選

望星病院 浅野 学

SP1-6 人工血管感染に対する治療法と人工血管管メンテナンスを考える。
部分抜去か、全抜去か？ 安全な使用法は？

大宮中央総合病院 四宮 敏彦

企業セミナー1：日本メドトロニック株式会社 14:00～14:30

座長：小川 智也（埼玉医科大学総合医療センター）

『インパクト症例検討 適正使用について』

症例提示：清水 泰輔（埼玉医科大学総合医療センター）

使用指針：小川 智也（埼玉医科大学総合医療センター）

企業セミナー2：日本ゴア合同会社 14:30～15:00

座長：中川 芳彦（関越病院）

『バイアバーン症例検討 適正使用について』

症例報告：肥田 徹（埼玉協同病院）

使用指針：中川 芳彦（関越病院）

シンポジウム2 15:10～16:30

『VA 管理で求められる観察力』

座長：宮崎 ひとみ（北朝霞駅前クリニック）

吉本 裕（草加市立病院）

SP2-1 当院におけるエコーガイド下穿刺普及に向けての取り組み

志木駅前クリニック 看護師 吉田 絢那 他

SP2-2 看護師が行う穿刺時の取り組み

北朝霞駅前クリニック 看護師 田岡 あかり 他

SP2-3 当院の VA 管理における超音波診断装置の活用事例

彩の森草加クリニック 臨床工学技士 星 健太

SP2-4 VA 理学所見の観察力と重要性

埼玉医科大学病院 臨床工学技士 渡部 恭兵

表彰式・閉会式 16:30～16:45

埼玉アクセス研究会 会 長 中川 芳彦

埼玉アクセス研究会 副会長 四宮 敏彦

特別講演

シンポジウム 1

SIX SENSE of VA 戦士の流儀

シンポジウム

SP1-1

私とアクセスとの繋がりを振り返る

○東原 宣之(トウハラ タカユキ)、鈴木 義隆

IMS(イムス)グループ 医療法人財団 明理会 イムス富士見総合病院 血管外科

一般外科手術の修練はアッペ、ヘモ、ヘルニア、バリックスと言われる手技から始まるが、その中で私とアクセスとの出会いは血管班の先生から内シャントを教えていただいたことから始まる。当初は動静脈吻合の手技ができ、「流れた!」ということだけで満足していたことを思い出す。以前に所属していたある施設では他科によってアクセス診療が行われていたため、一時はアクセス診療から離れていたが、2013年にイムス富士見に赴任してから当院のアクセスをほぼ全症例関わるようになった。当院の特徴としては、透析室へのアクセスやスタッフとの敷居が低く、また、当院は埼玉医科大学総合医療センターより派遣いただいている腎臓内科の先生と一緒に手術を行うこともあるため、アクセス管理にとって良好な環境である。手術はVAIVTが多く、ステントグラフト、DCB、40atm 耐圧バルーンなどデバイスも使用が可能となり少数例ではあるが経験している。また、外科的手術では一時は自家静脈にこだわっていたが、最近では人工血管を使用した手術も行い、アクセス維持に関わらせてもらっている。本シンポジウムのテーマである「流儀」とは恐縮であるが、私とアクセスとの関わりを紹介する。

一般演題

01-1

左前胸部 AVG (左鎖骨下動静脈吻合) の静脈側吻合部狭窄を起因とした頻回閉塞に対して VIABAHN 留置が有効であった 1 例

○金子 修(カネコ オサム)、中村 裕美子、佐野 達郎、肥田 徹、安部 望、清水 泰輔、小川 智也、長谷川 元

埼玉医科大学総合医療センター 腎・高血圧内科

59歳男性、糖尿病腎症から末期腎不全となり、31歳で腹膜透析を導入し、41歳時に血液透析へ移行した。閉塞性動脈硬化症に伴う左前腕及び左下肢切断術後、右鎖骨下動静脈閉塞の既往があり、これまでも頻回のシャント手術と PTA を行った。2019年10月18日に左前胸部 AVG を作成し、2021年08月21日、2022年2月12日、3月31日、4月5日に PTA を実施したが、4月9日にシャント閉塞をきたした。同日に外科的グラフト内血栓除去術を施行するも、4月11日に再度シャント閉塞をきたした。難治症例であり PTA 及び VIABAHN 留置を行い、以降はシャント狭窄なく経過した。他の透析アクセス手段の確保が困難であり、頻回にシャント狭窄と閉塞をきたす左前胸部 AVG の静脈側吻合部狭窄に対して VIABAHN 留置が有効であったため、考察を踏まえて報告する。

01-2

前腕での動脈・静脈・動静脈転位を伴う内シャント再建術の経験

○中川 芳彦(ナカガワ ヨシヒコ)¹⁾、松田 香¹⁾、村上 徹²⁾

1) 新都市医療研究会 関越病院、2) 関越腎クリニック

【目的】内シャント再建術を施行するにあたり、やむを得ず血管を転位して血行再建することが稀にある。2020年より、「静脈転位を伴う」内シャント術が新たに保険請求項目に加わったことを機に、過去の手術症例を調査したので報告する。

【方法】2017年からの5年間に当院でおこなったバスキュラーアクセス手術の中から前腕部で動脈転位、静脈転位、動静脈転位を行った内シャント再建術を抽出し、術後の成績を後ろ向きコホート研究として調査した。

【成績】橈骨動脈転位(RT)が2例、尺骨動脈転位(UT)が1例、橈骨動脈と尺側皮静脈の転位(RBT)が1例、尺側皮静脈転位(BVT)が3例、橈側皮静脈転位(CVT)が2例の計9例であった。全例手術は成功した。RTの1例が4ヶ月後に閉塞、UTの1例は10ヶ月後にPTAを施行しその後長期開存、RBTの1例は1年後にPTAを施行しその後長期開存、RTの1例、CVT、BVTの5例はいずれも無処置で長期開存していた。全例、末梢循環障害の示唆される兆候は発現しなかった。

【考察】血管転位を伴う内シャント再建は、それぞれやむをえない状況から選択された術式であった。動脈転位では、動脈末梢端を結紮するため末梢循環障害が懸念されたが、それでも上腕動脈を用いた人工血管内シャントを選択する前に考慮する価値のある術式であった。また静脈転位を伴う内シャント再建は手術自体の難易度が高く、術後早期の閉塞や狭窄が発現しやすいと予想されたが、手技に習熟し、術後の狭窄に対してPTA等で適切に対処できれば良好な開存成績を残せるものと思われた。

編集後記(第11巻 第1号)

2020年1月頃より日本でも新型コロナウイルスが流行し、2年以上が経過致しました。流行当初は、対応策も確立しておらず、埼玉透析医学会・埼玉アクセス研究会共に開催自体が困難な状況でありました。昨年は両学術集会共に Web 形式での開催を行い、今年は遂に皆さまを現地会場でお迎えすることができることとなりました。まだまだ、会場での検温・マスク着用等の感染対策を欠かすことが出来ない状況ではございますが、参加者の皆様と会場でお会いできることを関係者一同楽しみにお待ちしております。

また、当日の感染拡大防止には関係者のみならず、参加者の皆様のご協力が必要不可欠となります。感染対策の意識を忘れず、会場ルールに則ってご参加を頂けますよう、心よりお願い申し上げます。

今後とも、埼玉透析医学会・埼玉アクセス研究会へのご協力・ご参加の程、宜しくお願い申し上げます。

埼玉透析医学会 事務局
埼玉医科大学病院 臨床工学部
伊佐 慎太郎

埼玉透析医学会 会誌

発行日：2022年7月1日
発行：埼玉透析医学会
発行人：岡田 浩一
編集：埼玉透析医学会 事務局
事務局：埼玉医科大学病院 腎臓内科
〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38
TEL：049-276-1611 FAX：049-295-7338
URL：<http://www.ssdt.jp/>
E-mail：jinnai@saitama-med.ac.jp

編集責任者：友利 浩司

編集委員：小川 智也、金山 由紀、佐々木 裕介、
伊佐 慎太郎、村杉 浩

出版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

定価：2,000円＋税